

「除草剤グリホサート耐性ワタMON88913系統とチョウ目害虫抵抗性ワタ15985系統を掛け合わせた品種」に係る食品健康影響評価に関する審議結果（案）

申請品種名：「除草剤グリホサート耐性ワタMON88913系統とチョウ目害虫抵抗性ワタ15985系統を掛け合わせた品種」

性 質：除草剤グリホサート耐性とチョウ目害虫抵抗性

申 請 者：日本モンサント株式会社

開 発 者：Monsanto Company（米国）

1. 申請品種の概要：

申請品種については、除草剤抵抗性の形質が付与された1系統、害虫抵抗性の形質が付与された1系統を従来からの手法で掛け合わせたものである。掛け合わせる前のワタMON88913系統、ワタ15985系統については、それぞれ安全性の評価は終了しており、いずれもヒトの健康を損なうおそれがあると認められないと判断されている。

2. 食品健康影響評価結果：

- ① 挿入された遺伝子によって宿主の代謝系に影響なく、除草剤耐性、害虫抵抗性の形質が付与されている品種同士の掛け合わせである。

ワタ15985系統に導入された *cry2Ab* 遺伝子及び *cry1Ac* 遺伝子により産生される Cry2Ab タンパク質及び Cry1Ac タンパク質はいずれも酵素活性を持つことは報告されておらず、植物代謝経路に影響を及ぼすことはない判断される。

また、ワタMON88913系統に導入された *cp4 epsps* 遺伝子により産生される CP4 EPSPS タンパク質は、シキミ酸合成経路（芳香族アミノ酸合成経路）の律速酵素ではなく、EPSPS（5-エノールピルビルシキミ酸-3-リン酸合成酵素）活性が増大しても、本経路の最終産物である芳香族アミノ酸の濃度が高まることはないことから、その作用機作は独立しており、植物代謝経路に影響を及ぼすことはない判断される。

いずれの形質も、その作用機作は独立しており、ワタ15985系統とワタMON88913系統の掛け合わせ品種において互いに影響し合わないと考えられる。

- ② 亜種レベル以上の交配ではない。

掛け合わせた品種は、いずれも *Gossypium* 属 *hirsutum* 種であり、分類学上の同一種である。

- ③ 摂取量・食用部位・加工法に変更はない。

ワタMON88913系統とワタ15985系統、及びそれらを掛け合わせた品種において、摂取量、食用としての使用部位、加工法等の利用目的ならびに利用方法に変更はない。

以上、①～③の結果から、「除草剤グリホサート耐性ワタMON88913系統とチョウ目害虫抵抗性ワタ15985系統を掛け合わせた品種」については、「遺伝子組換え植物の掛け合わせについての安全性評価の考え方」（平成16年1月29日 食品安全委員会決定）に基づき、安全性の確認を必要とするものではなく、その安全性に問題はないと判断される。